



日本郵便 年賀寄付金

2023 年度日本郵便年賀寄付金助成事業

実績報告書

「コロナ禍で制限されてきたコミュニケーション力をとりもどすための
子どものあそび交流体験」

	実施会場 日時	パフォーマー・プログラム名
1	千葉市児童相談所 7月12日(水) 9:30~11:00	安西真幸・安西千紗 リズムにのってダンスワーク
2	銚子児童相談所 7月14日(金)13:30~15:30	永野むつみ・大沢直 見たこともない生き物をつくろう!
3	東上総児童相談所 8月14日(月)13:00~15:00	大潤弘幸・岡本圭 からだをつかっていっしょにあそぼう!
4	千葉リハビリテーションセンター 8月21日(月)10:00 ~14:10	BB モフラン・ダウディ・典子 アフリカの風を楽しもう!
5	船橋市塚田児童ホーム 9月5日(火)10:30~12:00	安西真幸 おやこでいっしょにダンスあそび!
6	中央児童相談所 9月26日(火) 10:00~11:00	安西真幸・安西千紗 おどって あそんで ダンス Dance
7	白井市桜台センター 9月27日(水)10:30~11:20	大森靖枝 なんだろな なんだろな?
8	鎌ヶ谷市粟野児童センター 9月29日(金)10:30~11:20	大森靖枝 なんだろな なんだろな?
9	印西市ふれあい文化館 10月3日(火)10:00~11:30	安西真幸 おやこでいっしょにダンスあそび!
10	成田市子ども館なかよしひろば 11月21日(火)13:50~14:30	大沢 愛 わらべうた うたとおはなしのじかん
11	君津児童相談所 11月21日(火)13:30~14:30	大潤弘幸・岡本圭 体をつかっていっしょにあそぼう
12	市川児童相談所 12月5日(火) 10:00 ~12:00	安西真幸・安西千紗 ダンスワークショップ
13	柏児童相談所 12月7日(木) 13:30~15:00	大潤弘幸・岡本圭 からだをつかっていっしょにあそぼう
14	佐倉市北志津児童センター 12月12日(火)10:10~10:50	大沢 愛 わらべうた うたとおはなしのじかん
15	千葉市桜木園 12月14日(木)13:45~14:35	BB モフラン・ダウディ・典子 アフリカの音とリズムを楽しもう!



後援：千葉県 千葉市 千葉県教育委員会



1. 事業名：「コロナ禍で制限されてきたコミュニケーション力をとりもどすための 子どものあそび交流体験」事業

2. 目的

コロナ禍でマスク生活が3年続いている。乳幼児は生まれてからずっと周りの人がマスク着用で、声をかけられたり直接ふれあったりする経験がほぼないまま育っている。長期自粛が続き乳幼児の親にとってもストレスや緊張が高まっている状態が続き、親子で笑顔になり心身を解放する体験が不足している。児童相談所の子どもはほぼ100%虐待で入所し、閉ざされた空間で、限られた人間関係の中での生活となり行動が制限され、新たな出会いや気持ちを発散する機会が減っている。長期入院している重症心身障がい児もコロナ禍で外との交流がほとんどできない状況にある。

どんな状況にあっても子どもの成長発達には、安心して自分を表現し楽しく希望につながるあそびと交流の体験が必要である。ウィズコロナで制限が緩和されてもなお、緊張と孤立が続きがちな乳幼児や児童相談所や重症心身障がいの子どもに向けて、プロのパフォーマーによる芸術的手法で人とつながりコミュニケーションを楽しむ体験を届ける。そして、地域からQOL向上や自己肯定感の向上を応援する。

3. 実施体制

- ・当団体に養成した「ちば子ども文化地域コーディネーター」22名が、実施会場のヒアリングやパフォーマーとの連絡調整にあたる。
- ・実施にあたっては、担当のコーディネーターが丁寧な打合せをし、不安や齟齬がないよう取りはからう。
- ・各会場当日体制は、どの体験ワークもパフォーマー1人～3人、当団体のコーディネーター2名で実施する。

■第1回コーディネーター研修会議

開催日時：2023年5月31日（水）13:20～15:30

会場：千葉市民会館 第4会議室

参加者：22名

内容：事業概要 目的の確認

コーディネーターの機能と役割

事業進行スケジュール 意見交換



■第2回コーディネーター研修会議

開催日時：2024年1月26日（金）13:30～15:30

会場：千葉市文化センター 会議室2

参加者：22名

内容：事業のまとめ 成果と課題の確認

15か所の実施個所の報告や交流

実施施設からの報告 今後に向けて





4 事業実績

	実施施設	実施日時	パフォーマー名と ワーク名	参加者数(人)					合計
				子ども	保護者	施設職員	行政・地域	パフォーマー・ コーディネーター	
1	千葉市児童相談所	7月12日(水) 9:30~11:00	安西真幸・安西千紗 リズムのってダンスワーク	23	0	2	0	4	29
2	銚子児童相談所	7月14日(金) 13:30~15:30	永野むつみ・大沢直 見たこともない生き物をつくろう!	7	0	9	0	4	20
3	東上総児童相談所	8月14日(月) 13:00~15:00	大潤弘幸・岡本圭 からだをつかっていっしょにあそぼう!	24	0	3	0	4	31
4	千葉リハビリテーションセンター	8月21日(月) 10:00~14:10	BBモフラン・ダウディ・典子 アフリカの風を楽しもう!	91	5	45	0	5	146
5	船橋市 塚田児童ホーム	9月5日(火) 10:30~12:00	安西真幸 おやこでいっしょにダンスあそび!	26	22	4	4	3	59
6	中央児童相談所	9月26日(火) 10:00~11:00	安西真幸・安西千紗 おどって あそんで ダンス Dance	13	0	10	0	4	27
7	白井市桜台センター	9月27日(水) 10:30~11:20	大森靖枝 なんだろな なんだろな?	23	20	4	1	3	51
8	鎌ヶ谷市 栗野児童センター	9月29日(金) 10:30~11:20	大森靖枝 なんだろな なんだろな?	14	14	2	0	3	33
9	印西市 ふれあい文化館	10月3日(火) 10:00~11:30	安西真幸 おやこでいっしょにダンスあそび!	39	37	4	2	4	86
10	成田市子ども館 なかよしひろば	11月21日(火) 13:50~14:30	大沢 愛 わらべうた うたとおはなしのじかん	10	8	6	0	3	27
11	君津児童相談所	11月21日(火) 13:30~14:30	大潤弘幸・岡本圭 体をつかっていっしょにあそぼう	22	0	9	0	4	35
12	市川児童相談所	12月5日(火) 10:00~12:00	安西真幸・安西千紗 ダンスワークショップ	35	0	6	0	4	45
13	柏児童相談所	12月7日(木) 13:30~15:00	大潤弘幸・岡本圭 からだをつかっていっしょにあそぼう	19	0	4	0	4	27
14	佐倉市 北志津児童センター	12月12日(火) 10:10~10:50	大沢 愛 わらべうた うたとおはなしのじかん	13	13	2	0	4	32
15	千葉市桜木園	12月14日(木) 13:45~14:35	BBモフラン・ダウディ・典子 アフリカの音とリズムを楽しもう!	60	0	25	0	6	91
参加人数(人)				419	119	135	7	59	739
				680					

※当日参加者：680人（子ども419人 保護者119人 施設職員135人 行政・地域7人）

※子ども419人（乳幼児125人 小学生以上～高校生294人）

※パフォーマー・コーディネーター59人（パフォーマー26人 コーディネーター30人 スタッフ3人）



5 事業成果 課題

■3年余に渡るコロナ禍での自粛自制・マスク生活は、子どもたちの遊びやコミュニケーションの機会を奪い、心身の発達が危惧される状況は、どの施設でも感じていた。5類に移行された今年は、ほぼ元通りに戻った施設と、感染が危惧されるということで実施不可や延期になった施設もあり、様々な感染防止に十分配慮をして実施した。

■コーディネーターは、15か所の実施先と丁寧な打ち合わせにより、子どもの状況やニーズを把握し、指導者との連絡調整をして希望やニーズに添うプログラム内容を検討し、準備万端整えて臨んだ。

■児童相談所や児童養護施設、病院に届けた小学生～高校生対象のワークショップと、0歳～2歳と保護者対象のワークショップでは、アンケートの設問内容も変えた。

アンケート回収率は小学生以上のワークショップ体験が93%、0歳～2歳と保護者対象のワークショップは保護者88%。施設スタッフからは自由記述への記載内容が充実している。

■子ども(小学生・中学年生・高校生)のワークショップの成果

1子ども自身が、「たのしかった・おもしろかった・やれてよかった・げんきになった・うれしかった・きぶんがよかった」と、積極的に参加できたリアルな声がほぼ100%に及ぶ。ワーク後は、「もっとやりたい・また来てほしい」は93%。また「わすれられない1日になった」との記述もあり、子どもたちにとって豊かなコミュニケーションの機会となり、生きる力につながっていくことを認識できた。

2日常子どもたちと接している施設スタッフは、自由記述で「子どもが笑顔」になったことを第1の成果としている。児童が主体的に行動していたことに驚き、最初は控えめだった子どもが少しずつ心を開いて変化し、笑顔でワークに参加した姿を感動的に捉えている。子どもの意欲関心を引き出した。

3プロの指導者の子どもへの接し方、誉め言葉や寄り添う言葉が子どもに響き、認めてもらえたことを感じた子どもたちが、自信をもって喜々と参加し、大人との信頼関係が自己肯定感の向上につながっている。心身を解放して自己表現するアートによる遊び体験が子どもの自己尊重感情を高めた。

■0歳～2歳と保護者対象のワークショップの成果

1参加した保護者や施設スタッフ共に、乳幼児の表情が「笑顔」がいっぱいで、音や呼びかけに集中して反応し、真似をしたり、興味深く見たりきいたりしていたは80%を超え、乳幼児の力を感じ驚いている。また、いっしょに参加した保護者自身の気持ちもうれしく、癒され、安心して、楽しく参加できたは90%。家に帰って・施設で遊んでみよう思うものがあつたは100%。豊かなあそび体験ワークに満足できた。

2乳幼児期は基本的な人格形成の芽を育む時期であると同時に、0歳～2歳は子育ての戸惑いが多い時期でもあることから、乳幼児・保護者共に、こうした芸術的なプログラムが子育て支援としても有効であることが確認できた。親子がふれあい、愛着形成の場面が随所にあり、幸せ感が溢れるワークとしての価値が高い。

■課題

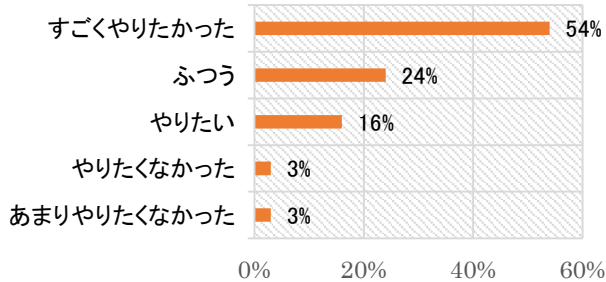
事業を一過性に終えず、継続し広げより多くの子どもに届くようにしていく必要がある。「こども大綱」のこども・乳幼児期それぞれの遊び体験活動・ウェルビーイングの重要性を実現するために、更なる行政他との連携を強化する。

◆子ども(小学生・中学生・高校生)対象のワークショップ 9か所のデータ

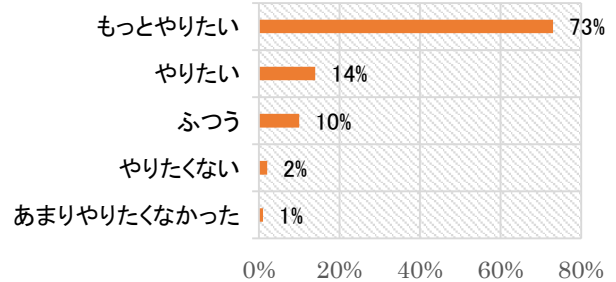
1	千葉市児童相談所	7月12日(水) 9:30~11:00	安西真幸・安西千紗「リズムにのってダンスワーク」
2	銚子児童相談所	7月14日(金) 13:30~15:30	永野むつみ・大沢直「見たこともない生き物をつくろう！」
3	東上総児童相談所	8月14日(月) 13:00~15:00	大潤弘幸・岡本圭「からだをつかっていっしょにあそぼう！」
4	千葉リハビリテーションセンター	8月21日(月) 10:00~14:10	BBモフラン・ダウディ・典子「アフリカの風を楽しもう！」
5	中央児童相談所	9月26日(火) 10:00~11:00	安西真幸・安西千紗「おどって あそんで ダンス Dance」
6	君津児童相談所	11月21日(火) 13:30~14:30	大潤弘幸・岡本圭「体をつかっていっしょにあそぼう」
7	市川児童相談所	12月5日(火) 10:00~12:00	安西真幸・安西千紗「ダンスワークショップ」
8	柏児童相談所	12月7日(木) 13:30~15:00	大潤弘幸・岡本圭 「からだをつかっていっしょにあそぼう」
9	千葉市桜木園	12月14日(木) 13:45~14:35	BBモフラン・ダウディ・典子「アフリカの音とリズムを楽しもう！」

子ども(小学生・中学生・高校生)のアンケート集計結果 アンケート回収 93%

問1 やる前はどんな気持ちでしたか？(%)

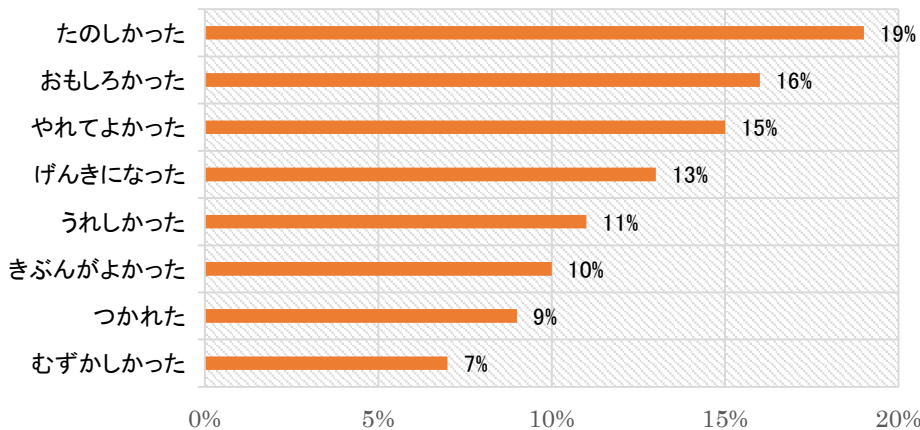


問2 ワorkshopをやった後の気持ちはどうでしたか？(%)



ワークをやる前はすごくやりたい・やりたい70%、ふつう24%。やった後はもっとやりたい・やりたいが87%、ふつう10%と、実施後はもっとやりたいへと気持ちの変化があり、貴重な時間であったことが伺える。やりたくなかった、あまりやりたくなかったと消極的な参加が6%であったが、実施後は3%となった。

問3 きょうのワークはいかがでしたか？複数回答(%)



たのしかった、おもしろかった、やれてよかった、げんきになった、うれしかった、きぶんがよかったと、多くの子どもたちが、これらほぼすべてに○をつけている。

つかれた、むずかしかったは、遊び過ぎて疲れた、コマを回すのは難しいということが記述から読み取れた。

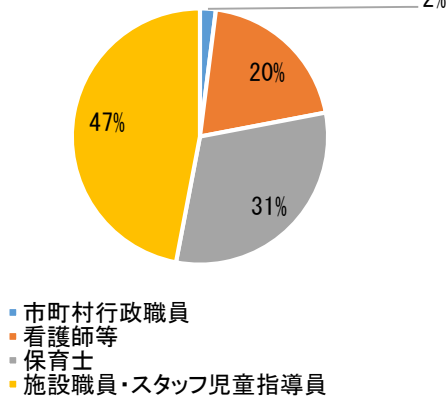
疲れるまで遊び込み、難しい技に挑戦したことや、仲間との体験が、子どもたちに様々な嬉々とした感情を抱かせ、満足感や達成感をもたらした。

子どもたちの自由記述

- *いつでもきてね いっしょにあそんでくれてありがとう。
- *みんなで楽しくダンスをして、元気が出ました。私はあまりちゃんとできなかったけど、みんながやる姿を見て楽しそうだなと思いました。
- *意外に簡単そうに見えて、すごく疲れました。もうちょっと難しいダンスがしたいとは思ったけど、でもものすごく楽しかったです。ダンスのせんすがよくて、とてもたのしくできました♪またやりたいなあー
- *楽しかったです！ 忘れない1日となりました！ またきてください。多数あり。
- *たのしかったです。もっとやりたかったです。うれしかったです。すごくたのしかったです。
- *最初は、少しはずかしくて緊張したけど、やるにつれて、はずかしさと緊張がなくなってきて、最後はおもいきり楽しく遊べました！
- *色オニやリーダーゲーム、かくれんぼ、こま、ひさしぶりにできて楽しかったです。外でのおにごっこはつかれたけどまたやりたいです。
- *かくれんぼって聞いて「えっ…かくれる場所ない…」って思ったけど、探せばかくれる所がいっぱいありました。じぞうになったり、カーテンにかくれたり、みんなでつながったり、すごく楽しかったです。色おには、色だけじゃなくかんしよくやそのがら、もようをお題にだして、「あ…こういう色おにでもいいんだ。」と思いました。
- *お別れするときは、ちょっぴり悲しかったけれど、すごくうれしかったし、やれてよかった。

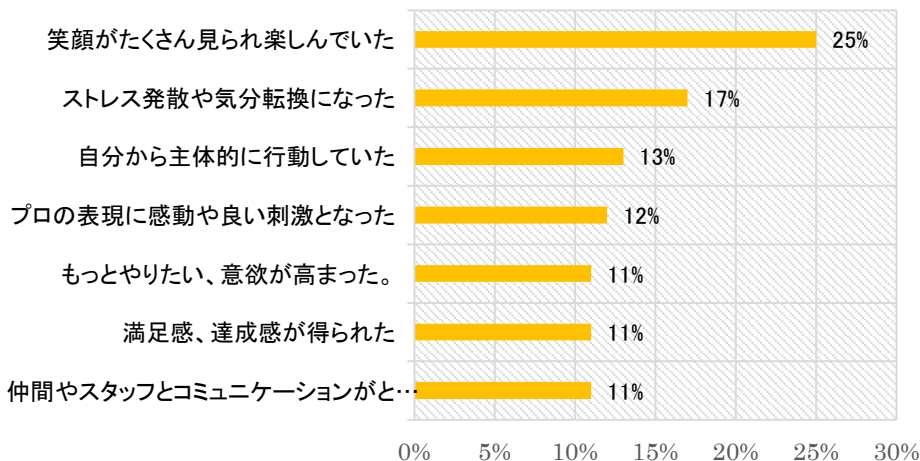
施設職員・スタッフ 行政等のアンケート集計結果

◆あなたの職種を教えてください 2%



施設職員・スタッフ
 児童指導員：24人
 保育士：16人
 看護師他：10人
 行政職員：1人

◆ワークを体験した子どもたちの表情は？ 複数回答%



子どもたちの様子は「笑顔がたくさん見られ楽しんでいた」が25%だった。「子どもが笑顔」になることを大切にしたい事業であり、他の設問への応答からも、体を動かし芸術的なプログラムを体験した子どもの意欲的で積極的な表情がよく見えたことが伺えます。施設職員・スタッフから高い評価を得たと言えます。

施設スタッフ等のアンケート集計結果（児童指導員 保育士）

★芸術やあそびの専門性のある指導者の力、ここはプロだなとかんじたところがありましたか？

- ・児童が興味を持てるような話し方、メリハリをつける話し方に感心しました。児童と同じ目線立って一緒に遊びに参加していたところ。
- ・言葉のかけ方はもちろんそれを納得させる体の動きがすばらしかったです。
- ・言葉遣いが適切、おもしろいことを言っているが、言うてはいけないことは言っていない。言葉を放つタイミング、間の取り方がすごかった。又、子ども達の反応を見ながら遊びを変えていくのが見事だった。
- ・ひとりひとりの創意工夫を拾ってあげているところが、子の意欲をもっと引き出すきっかけになった。
- ・子どもたちの笑顔がたくさん見られたところ、児童が良く動いていたところ
- ・ゲームの中で大きい年齢の子どもたちも笑顔が多く、すすんで遊びはじめていて、すごく楽しそうでした。子どもたちの反応がよくてその部分にプロだなあと感じました
- ・作業を嫌がっている子に対して優しく声をかけてくれたり、作業に取り組めるように接してくれました。そのおかげでその子も作り上げることができ喜んでいました。私も保育士でこういうことは慣れているはずですが、やる気を出させる素早さがすごいと思いました。
- ・静かにさせたい時、無理やりでなく音楽を子どもたちの耳を向かせ静かになるのを待つて次のことをやる
ところ、興味が向かない児童へ対してのアプローチが見事。
- ・各々の作品に対して個性を尊重し、作品のポジティブ評価をしていた。あちこち歩きまわる幼児に対しても 安全を確保する目配りをしてくださっていた。
- ・声や拍手などで表現できない利用者さんたちですが、声かけや音楽でいつもみられない表情、行動を利用者さんたちがしてくれて、声かけ、音楽のすばらしさを感じました。

★子どもたちの具体的な様子を教えてください。また、この事業の成果や子どもの自己肯定感や QOL 向上につながったと感じられましたか？それはどのようなことでしたか？

- ・ダンスは体育で経験したこともある児童もいましたが、実際に何をするのか不安な様子もありました。実際、子ども達は少しずつ心を開き、笑顔になっている様子がうかがえました。職員も子どもが笑顔になっていることで笑顔になっていました。
- ・児童が主体的に状況を見て行動していたため、自信をもって取り組んでいた。
- ・楽しんでる子が多かったこと、高年齢児も拒否することなく遊べたことです。名前を呼んでもらえることで、自分のことを良く見ていてくれると感じられ、自己肯定感につながったかと思います。
- ・音楽に合わせてたくさん体を動かしとても楽しそうに行っていました。最初ははずかしがってやらなかったり座り込んでいた子も、次第に参加できていました。
- ・音をきいて動きを自由に表現する遊びでは、子どもたちの思い思いの表現を認めてくださっていたことにより、表現する楽しさ喜び等を、とても感じられたと思います。また、大人や他児とのコミュニケーションの形成にもつながったと思います。
- ・集団は行動が苦手な集中力に欠けるところが多い子どもたちが、時間いっぱい笑顔で体を動かし、心身共に充実した時間を過ごすことができたためか、その後の日課も落ち着いて過ごすことができた。
- ・普段は自己表現が苦手な児も笑顔で取り組んでいました。自分のアイデアを取り入れてもらえて自信になっていた。その踊りを全員が行い見合うという取り組みも効果的だと感じました。
- ・一人一人のかくれている様子を具体的に言語化し、かくれ方を評価していたところが、遊びの中での自己肯定感の向上につながっているのではないかと感じました。
- ・緊張している利用者さんもいたが、最後までみんなと楽しむことができていた。普段聴くことのできない音楽にふれ合うことで色々な感情表現をしてくれた。

★実施後感じられた、本事業へのご意見、今後のご要望、改善点などをお聞かせください。

- ・子どもを遊ばせるのではなく、大人と一緒に遊ぶ中で、遊び方を教えるという手法を、我々職員ももっと学ばなくてはならないと感じました。
- ・貴重な体験、様々な体験ができる貴重なプログラムだと思います。
- ・引き続きの実施を望みます。多数あり

◆0歳～2歳と保護者対象のワークショップ 6か所のデータ

1	船橋塚田児童ホーム	9月5日(火) 10:30～12:00	安西真幸「おやこでいっしょにダンスあそび！」
2	白井市桜台センター	9月27日(水) 10:30～11:20	大森靖枝「なんだろな なんだろな？」
3	鎌ヶ谷市粟野児童センター	9月29日(金) 10:30～11:20	大森靖枝「なんだろな なんだろな？」
4	印西市ふれあい文化館	10月3日(火) 10:00～11:30	安西真幸「おやこでいっしょにダンスあそび！」
5	成田市子ども館なかよしひろば	11月21日(火) 13:50～14:30	大沢 愛「わらべうた うたとおはなしのじかん」
6	佐倉市北志津児童センター	12月12日(火) 10:10～10:50	大沢 愛「わらべうた うたとおはなしのじかん」

保護者アンケート集計結果

◆アンケート枚数：110人（回収率 88%）

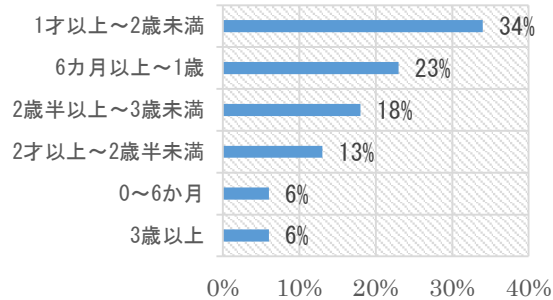
（母親105人 父親3人 祖父母等その他家族2人）

◆参加者の年齢

（30代78人 20代18人 40代12人 50代以上2人）

施設スタッフ 行政職員アンケート集計結果

◆参加した乳幼児の年齢



◆乳幼児の年齢

0～2歳まで118人、95%。

目的を達成するために対象を0歳～2歳に絞って実施できた。

◆施設職員やスタッフの経験年数

3年以上～10年以上 74%
1年未満 16%
1年以上～2年未満 11%

◆施設職員やスタッフが関わった乳幼児の年齢

0カ月～3歳以上のほぼすべての年齢の乳幼児に関わっている。経験年数も3年・5年・10年を超えるベテランの職員が多い。

時間はどうでしたか？

◆保護者

ちょうどよかった 84%
もっと長くてもよかった 14%
もっと短くてもよかった 2%

◆施設スタッフ

ちょうどよかった 98%
もっと長くてもよかった 1%
もっと短くてもよかった 1%

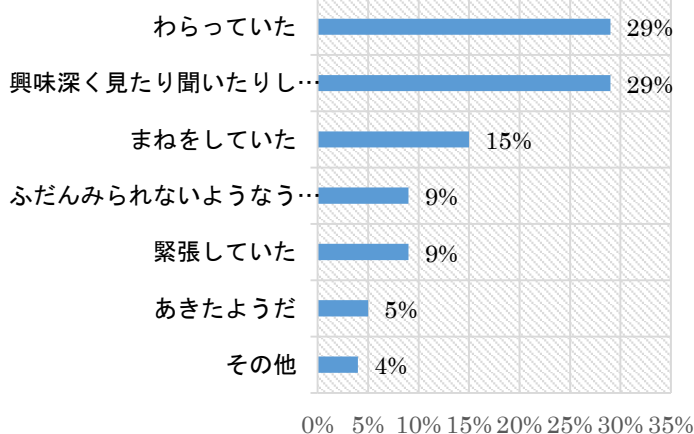
◆また参加したいですか？

保護者回答
参加したい 100%

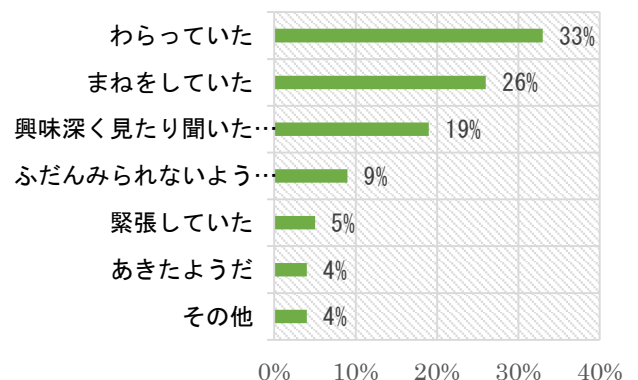
◆また実施したいですか？

施設スタッフ回答
実施したい 85%
実施は難しい 15%

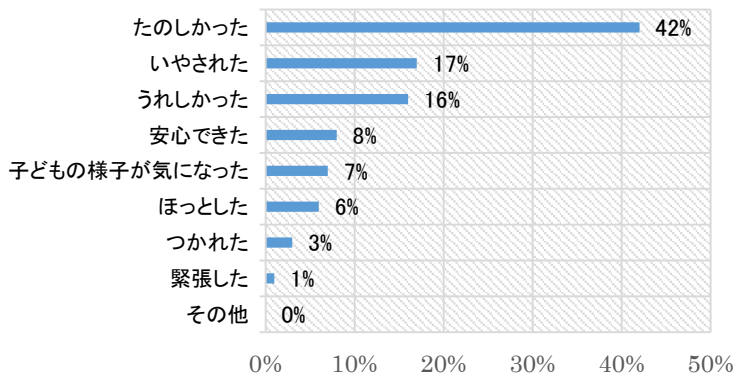
◆ワークショップを体験したお子さんの表情についてどうでしたか？（保護者複数回答）



◆ワークを体験した子どもたちの表情はどうでしたか？（施設スタッフ複数回答）



◆わが子といっしょに見て、親の今日の気持ちはどうでしたか？（保護者複数回答％）

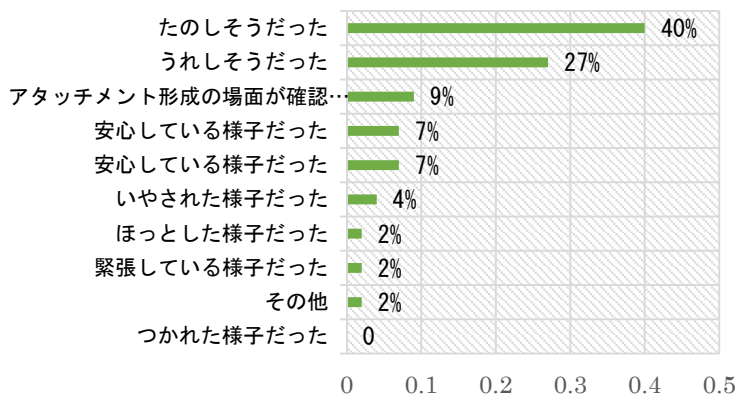


●参加した乳幼児の表情は、保護者・施設スタッフ共に、わらっていた、興味深く見たり聞いたりしていた、真似をしていた、ふだんみられないような姿をみたが 80%を超えています。また、緊張していた、あきたようでは 9%です。

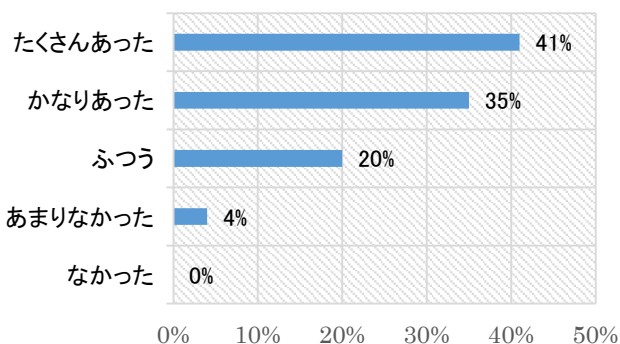
●参加した親の気持ちは、楽しかった いやされた うれしかった 安心できた等で 90%を超えている。

●施設スタッフが感じた、参加した乳幼児と保護者の様子について、たのしそうだった、うれしそうだった アタッチメントが確認できた、安心している様子だった 癒された様子だった、ほっとしている様子だった等で 89%。

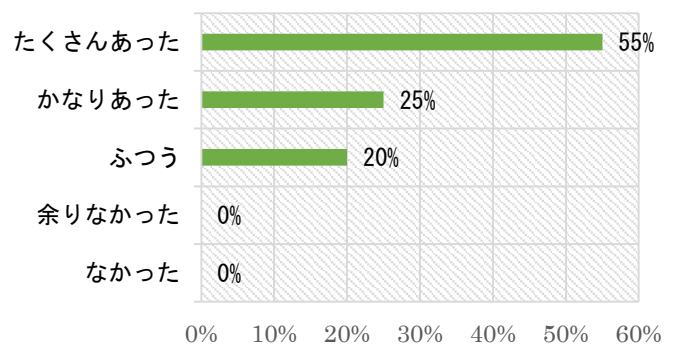
◆保護者、または子どもと保護者の様子はどうでしたか？（施設スタッフ複数回答）



◆家に帰ってやってみようと思うことができましたか？（保護者）

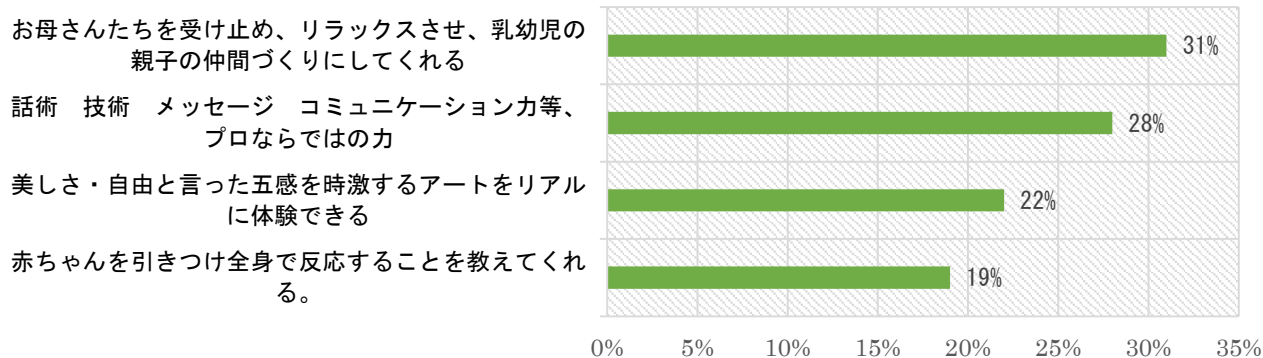


◆家に帰ってやってみたいと思ったものがありましたか？（施設スタッフ）



参加した保護者や施設スタッフ共に、乳幼児の表情が「笑顔」がいっぱいで、音や呼びかけに集中して反応し、真似をしたり、興味深く見たりきいたりしています。また、いっしょに参加した保護者の気持ちも、癒され、安心して たのしく参加できたという結果を得ました。基本的な人格形成がされる乳幼児期と、子育ての戸惑いが多いこの時期に、こうしたプログラムが子育て支援にも有効であると言えます。

◆ パフォーマーの力をどう思いましたか？（施設スタッフ複数回答）



保護者の自由記述

- ・とても楽しくできた。家でも取り組んでみたい。いい経験になりました
- ・子どものよいしげきになりよかったです。また参加したいと思います
- ・同じくらいの年齢の子と遊べてとてもよい機会でした
- ・簡単な歌や身の周りのものでも工夫次第で楽しいあそび、おもちゃになることを改めて感じて家でもやってみたいと思いました。楽しかったです。
- ・普段、自宅で遊ぶと偏った遊びになりがちだけれど、こうしたあそびの交流があることで、遊びの幅も広がり、子どもも楽しそうにしていました。
- ・子どもも楽しめて、親もリフレッシュできました。
- ・音に合わせて動くのが好きなので、今日は参加できてよかったです。定期的にやっていただけたら嬉しいです
- ・人見知りをしたり、普段わらべうたを歌ったり聞いたりする機会がないので、参加できないところが多かったが私自身が楽しめました
- ・ふだんわらべ歌に触れる機会がないので今日はあいさんの雰囲気と歌でほっとした時間をほっこりすごせました
- ・子どもは、私のそばを離れることはできなかったのですが、しっかり見ていたので、家に帰ったらまねするのかなどと思っています。楽しいおちつく時間をありがとうございました。

施設スタッフの自由記述

- ・子どもへの声かけや保護者への声かけが上手で、さすがと思いました。お母さんたちが緊張せずに参加できていたように見えました。子どもたちがどんどん前にでて、積極的に動くのを見て、先生ののせ方がうまいと思いました。お母さんが子どもとコミュニケーションをとるのにとてもよい機会だと思いました。よいストレス発散になったのではないかと思います。
- ・子どもの自発的な能力をじょうずに促し、引き出していた。パフォーマーが、子どもの動作や音への関心、反応などを素早く察知し、子どもの目線にたち、親を含めた参加者が楽しく過ごせた。生活のよい刺激になったと感じた。当初緊張していた親子も時と共に和やか、開放感に満たされたと思う。とても楽しそうであった。年齢別にプログラムしたことはよかった。親子が驚いたり、笑ったり、楽しんでいたり、いろいろな表情をみることができ、うれしかったです。また、一緒に演じることができ楽しかったです。ゆったりとした時間の中、子ども達の笑い声も聞くことができ、すてきな時間を過ごすことができました。
- ・きれいな声にいやされました。小さな子どもがいないとなかなかわらべうたと出会う機会がないので、とても楽しかったです。ありがとうございました。
- ・つねにおちついたふんいきで、落ち着く感じがした。環境作りをとても大切にされていて、勉強になることが多くあった。
- ・他に行ってしまう子たちも受け入れていただき、お母さん方もほっとしていたと思います。集中していた親子が多く、職員としても嬉しく思いました。



日本郵便 年賀寄付金

実施施設：千葉市児童相談所

プログラム名：「リズムによってダンスワーク」



実施場所：千葉市児童相談所 2F スポーツルーム

実施日時：2023年7月12日(水) 9:30～11:00

参加者数：総数 25人

子ども 23人(小学生16人 中学生5人 高校生2人)

大人 2人(施設指導者2人)

スタッフ数：パフォーマー 2人(安西真幸 安西千紗)

コーディネーター 2人(滝口淳子 鈴木佳子)

ワークショップの内容

準備運動：ケンケンとび・四つんばいで走る・柔軟運動・足指ジャンケンなど
「かわいくてごめん」「アイドル」に合わせて踊る

当日の様子

最初は、緊張している様子だったが、すぐにとけこんで、準備運動も楽しそうにやり、中学生や高校生が小学生を引っ張っていた。一人(小学生)が最初は参加しないで端で見ていたが、気がつくとも参加していた。先生もまーちゃんも何も言わず、自分で判断して参加していた。

「かわいくてごめん」の曲がかかり、まーちゃんが「知ってる？」と聞くと笑みがこぼれた。

途中、子どもたちはダンスのふり付けを「どうしたらいいかな？」と聞かれ自分で体を動かしてみる。「それいいね！こう！」と声をかけられとても嬉しそうだった。まーちゃんと子どもたちの距離がどんどん縮まっていった。子どもたちの考えた振り付け(8ビート)を盛り込んで完成。次に「アイドル」の曲がかかると、「えっ！」と、ちょっとびっくりという気持ちと嬉しい気持ちがあふれ、心は解放され、イキイキと楽しそうに踊っていた。とても満足な時間を過ごし、みんなスッキリした表情でリフレッシュできた。

子どもの声

- ・ワークをやる前「やりたい・すごくやりたい」は10人。やった後「もっとやりたい」16人
- ・たのしかった16人 うれしかった7人 おもしろかった13人 げんきになった11人
きぶんがよかった8人 やれてよかった15人 むずかしかった8人 つかれた8人(複数回答)
- ・ダンスとても好き。いつもは自由にダンスができないので、またやりたい。もっと好きになった。
- ・みんなのアイデア出してダンス作るのも楽しかったから、やれて良かったです。
- ・悩みごとを、少しは忘れてリフレッシュできたので、良かったです。
- ・きつかったけど楽しかった。最初はいやだなと思ったけど次にもまた、やりたいことになった。
- ・できて良かったなと思いました。先生も面白くてやさしいし、いやなことがとんでいきました。

施設関係者からの声

- ・普段は自己表現が苦手な児も笑顔で取り組んでいた。自分のアイデアを取り入れてもらえて自信になっていた。その踊りを全員が行い見合うという取り組みも効果的だと感じました。
- ・思いっきりダンスして主体的に参加できていた。そして、満足気だった。
- ・子どもの心を短時間で解放してあげられる。本事業のすばらしさを、ぜひ継続してください。

(コーディネーター 鈴木佳子 滝口淳子)

実施施設：銚子児童相談所



プログラム名：「見たこともない生き物をつくろう」ワークショップ 日本郵便 年賀寄付金



子どもの写真は掲載不可

実施場所：銚子児童相談所 2階会議室

実施日時：2023年 7月 14日（金）13：10～15：00

参加者数：総数 16人

子ども7人(幼児1人 小学生2人 中学生3人 高校生1人)

大人 9人(行政職員1人 児童相談員1人 児童心理士1人 保育士3人 看護師1人
児童指導員2人)

スタッフ数：指導者2人(人形劇団ひばりあむ 永野むつみ 大沢直)

コーディネーター 2人(椎名好子 棚田純子)

ワークショップの内容

- ・3分間人形劇「ダンスが好きな女の子」
- ・様々な色の封筒や紙袋を体にして、テープや色画用紙、シュレッダー、両面テープ、様々なはさみ、切り抜きなど、豊富な材料や道具を自由に使って、自分だけの生き物を作っていく。
- ・オルゴールを静かにきく。お誕生日の歌（見たことのないいきもの生まれた日）
- ・みんなで作品を見せあひっこ、紹介しあう 名前は？ どこに住んでるの？ 何食べてるの

当日の様子

「今日は何色の気分かな？」パフォーマーの問いかけにすかさず「ピンク！」と大きな声で答えた幼児。会場に色とりどりの紙やテープが美しく並べられ、大沢さん手づくりの道具に興味津々、「エレベーターみたいだ」と遊んでいた。一緒に参加の先生方、職員さんのテーブルは青の世界に化していた。すべての材料を青色で統一していたからだ。

コツコツと、もの静かに作っていた女の子は細かい作業と独創性あふれる作品を完成させた。

作品が勢ぞろいして、静かにオルゴールのお誕生日の歌が流れ、見せあひこの時間。誰から始めるか左右の子たちがジャンケンで一番が決まると、大きな子たちから「なんでまけるんだよ～」とおもわず声があがった。それでもしっかりと自分の作った作品をアピールした。

なかなか始めなかった子、最後になって袋を手にとった後、むつみさんが寄り添っていっしょに作り始めた。むつみさんが子どもたちに声をかけるタイミングが絶妙だった。

子どもの声

- ・自分で考えて工作するのは楽しいと感じた。面白かった。・おうちのなかでやりたい。あそびたい。

施設職員からの声

- ・子どもが創意工夫したところを認めたり、褒められたりする経験は重要だと思うので、よい機会となった。
- ・製作に苦手意識のある子に声をかけ、子どもたちに興味をもたせ、中学生も楽しめる話術、あきさせない素材の多さ、指導の力がすごい。

(コーディネーター：椎名好子 棚田純子)

実施施設：東上総児童相談所

プログラム名：「体をつかっていっしょにあそぼう」



日本郵便 年賀寄付金



子どもの写真は掲載不可

実施場所：東上総児童相談所 2階 多目的室

実施日時：2023年 8月 14日(金) 13:00 ~ 15:00

参加者数：総数 27人

子ども 24人(幼児3歳以上:6人・小学生:12人・中学生:5人・高校生1人)

大人 3人(施設職員3人)

スタッフ数：パフォーマー 2人(劇団風の子 大潤弘幸 岡本圭)

コーディネーター 2人(白鳥みゆき 綿貫のぼら)

ワークショップの内容

- ・いろおに ・震源値はどこだ ・新聞紙の玉入れ ・かくれんぼ ・なりきりかくれんぼ
- ・紙コップけん玉 ・ジェスチャーゲーム

当日の様子

前半 女子の部

いろおにでは、赤、黄色、青、自分の靴下の縁取りの青をみせて笑顔、やったね。すごい！と褒められて満足顔になった。ツルツルは床を指さして寝転ぶ。ポニーテールの女の子の髪の毛を触る。「ここ、ふわふわ」大潤さんが「そうだね！ふわふわだね」と応えた。震源地はどこだでは、震源地に指名された子が、ちょっと緊張気味に少しずつポーズを変える。みんな鬼になりたいらしく、たくさん手が挙がる。当たった子は嬉しそう。ちょっとむくれた子は「だって、鬼になりたいかったもん！」

新聞紙の玉入れ、よーい、どん！で新聞紙をくしゃくしゃに丸め玉を作ってかごに投げ入れる。かごをめがけてぴよんぴよんはねる。入ると「やった〜！」と歓声上がる。

後半 男子の部

はじめのあいさつは「阿部ちゃん」という男の子、大潤さんは、何かあるたびに子どもたちに声をかける。声をかけられた子どもたちはみんな嬉しそうな表情をした。「かくれんぼもう一回やろう！」とリクエストの声がたくさん出て、なりきりかくれんぼに挑戦した。床に寝転んで「忍者」「毛虫」座って「バブ〜」と言っている男の子、「赤ちゃん」といってみんなが大笑い！あっという間に時間が来た。「あべちゃん！あいさつ」と大潤さんが促すと、「あ〜楽しかった！楽しかった！」と笑顔でお別れした。「いつか会いましょう！」と男の子が言った。

子どもの声

アンケートから(人)：たのしかった 17 うれしかった 10 おもしろかった 17 げんきになった 11
きぶんがよかった 7 やれてよかった 15 むずかしかった 1 つかれた 2

- ・最初は、少しはずかしくて緊張したけど、やるにつれて、はずかしさと緊張がなくなってきた、最後はおもいきり楽しく遊べました！凄く楽しい1日となりました！また遊びたいです。
- ・もっとやりたかったです。うれしかったです。かくれんぼ、色おに、震源地全部楽しかったです。

施設関係者からの声

- ・動きや、子どもの発言、表情を見逃さずに捉え、その子どもとのコミュニケーションにつなげて いていたところが専門性の高さを感じました。
- ・自分の考え、やったことなどを、否定されず全てを受け入れてもらえており、子どもたちも「これでよかったんだ」「こうしてもよかったんだ」と言っている子がいた。遊びの中で自己肯定感の向上につながっていると感じました。(コーディネーター：白鳥みゆき 綿貫のぼら)

実施施設：千葉県千葉リハビリテーションセンター

プログラム名：「アフリカの風を楽しもう！」コンサート



日本郵便 年賀寄付金



実施場所：千葉県千葉リハビリテーションセンター大ホール

実施日時：2023年8月21日(月) ①10:30～11:10 ②13:30～14:10

参加者数：総数141人

子ども 91人(幼児15 小、中学生30 高校生以上46)

大人 50人(保護者:5 施設関係者:45)

スタッフ数：指導者 3人(BBモフラン ダウディ 當間典子)

コーディネーター 2人(綿貫のぼら 宇野京子)

ワークショップの内容

ライオンキングの歌、ライオンは寝ている トーキングドラムでどんぐりころころ マメの歌 マライカ ピアノ演奏
「イツスモールワールド」ハクナマタタダンス アンコール曲「モフランのソーラン節」

当日の様子

1部：車椅子やストレッチャーで参加の子どもたちは緊張感はない。音楽が鳴った途端の子どもたちの手や足が動いている。歌が始まると、大きな口を開けて音楽に合わせて一緒に歌っているように動いている。体を揺すりながらリズムをとり、寄り添っているスタッフが手を取ったり、体をたたいたり、手拍子でリズムをとっていると一緒に笑顔が出てくる。ピアノ弾きます」と當間さんがいうと、「お～！！」と歓声が上がります。いつも聴いているディズニーの歌に合わせて、歌っているような声のでている。目の見えない子が車椅子にのって、大きく体を動かしてリズムをとっている。一所懸命に体でリズムを表現して、楽しんでいる。車椅子のスーパーダンサーの女の子が、みんなの前で「頭、肩、腰、デケ、デケ、デン！！」とやってくれ、笑顔で拍手につつまれた。

2部：車椅子やストレッチャー、ベットの子どもが次々に会場へ入ってくる。トーキングドラムのリズムを速くして歌う、リズムをとっていたスタッフが「早いわ～！！」と喋りながら付き添っている子に話しかけ笑っている。

歌や演奏が始まると顔が紅潮して、目を大きく開き、体を動かして、リズムを楽しんでいる。スタッフに手を取ってもらいながら、持っている太鼓や、鈴をリズムに合わせて鳴らす。ギター演奏中に目の見えていない子が演奏に合わせてリズムをとっているように動いている。アンコールの「ソーラン節」は会場が一体になり、歌い、踊った。

子どもの声

アンケートから(人)：たのしかった12 うれしかった8 おもしろかった9 げんきになった10

きぶんがよかった7 やれてよかった9 むずかしかった2 つかれた3

- ・おとが大きかった おどりがたのしかった 歌をいっぱいうたった ・おうた たのしかった にぎやか
- ・見たことのない楽器があったり、アフリカの歌をきけてとてもたのしかったです ・知ってる曲がたくさんあって楽しかったです ・リズムがこせいできで良かった

施設関係者からの声

- ・久しぶりの生の歌、演奏で、職員の私もとてもわくわく楽しみにしておりました。生で聴く歌&演奏はやはり最高でした。こどもたちもとても喜んでいてすてきな笑顔が一杯でした。アフリカの音楽～でも、日本の歌も取り入れてくれてとても良かったです。またきてください
- ・病棟の子どもたちが楽しそうで、一杯楽器をふって笑顔になっていたので私は本当にたのしかったです。太鼓の音がおなかにドンドンひびくのもたのしかったかなと思います。モフランさんの「ライオンキング」の声がステキでした。またきてほしいです。

(コーディネーター：綿貫のぼら 宇野京子)

実施施設：船橋市塚田児童ホーム

プログラム名：「おやこでいっしょにダンスあそび」



日本児童福祉会
年賀寄付金



実施場所：船橋市塚田児童ホーム体育室

実施日時：2023 年 9 月 5 日 (火) 10 : 30 ~ 12 : 00

参加者数：総数 56 人

子ども 26 人 (0 歳 9 人 1 歳 10 人 2 歳 5 人 3 歳以上 2 人)

大人 30 人 (保護者 : 22 人 施設関係者 : 3 人 地域 : 4 人 実習生 1 人)

スタッフ数：パフォーマー 1 人 (安西真幸)

コーディネーター 2 人 (岡田泰子 大森智恵子)

ワークショップの内容

第 1 部 (0~1 歳児おやこ 14 組 35 分) 第 2 部 (2~3 歳児おやこ 8 組 35 分) のプログラムはほぼ同じ。子どものうごき (だっこ よちよち てくてく) によってアレンジを変えるプログラム
ストレッチ 幸せなら手をたたこう♪ シュクプールプールプー♪ 擬音語 (ピコピコ びよ〜ん ブクブク ニャー ビュービュー) 大きな布のはためきをくぐる・飛ぶ さんぽ♪の曲に合わせてダンスしたり走り回る エビカニミックス♪ クールダウン

当日の親子の様子

第一部 0~1 歳児

お母さんに抱っこしたまま、おひぎにのせたままの動きからはじまる。雰囲気慣れたころ、まねて手や指を動かす。音楽が入り、まあちゃんがかけ声をかけフリをみせていくと、抱っこのお母さんに笑顔が生まれ「高い高い!」「ジャンプ!ジャンプ!」と大きい動きが生まれ、子どもは大喜び。お母さんから離れて会場内を、雰囲気に合わせて自由に歩き回る子もいる。

第二部 2~3 歳児

楽しい音楽にあわせて体を動かし、声を発している子、会場に入った時のまま、自転車用のヘルメットを着けたままの双子ちゃんやリュックを背負ったままの子がいる。ともだちのうごきをマネしたり、まあちゃんの至近距離まで寄って一緒に踊ったり、だんだんに、そして自然にコミュニケーションがとれてきた。ニャーニャーの擬音語が聞こえるテープレコーダーに近づき、「ニャーニャー」と嬉しそうにマネして、得意げにおとなに教えていた。

保護者からの声

アンケートから (人) : たのしかった 18 いやされた 4 うれしかった 11 安心できた 11

ホッとした 11 つかれた 2 子どもの様子が気になった 1 緊張した 1 また参加したい 100%

・先生方が沢山コミュニケーションをとってくれた、たくさん手足を動かさせた、子どもが声を出したり笑ったりしていた、自由に動くのがいい、人見知りの子が楽しそうにダンスしていた、刺激になったから家でもやってみよう等。

施設関係者からの声

・児童ホームに来ている全然笑わない赤ちゃんがいる。生まれてから人のマスク姿しかみたことがないからかもしれない。3年は長過ぎた。安心してニコッとできるように、これから今日のような機会をたくさんつくりたい。

(コーディネーター：岡田泰子 大森智恵子)

実施施設：中央児童相談所

プログラム名：「おどって あそんで ダンス Danc」



日本郵便 年賀寄付金



子どもの写真はプライバシー配慮してモザイク処理済

実施場所：中央児童相談所 4F 多目的室

実施日時：2023年9月26日(火) 10:00 ~ 11:00

参加者数：総数 23人

子ども 13人 (2歳・3歳以上幼児13人)

大人 10人 (児童指導員・保育士10人)

スタッフ数：パフォーマー 2人(安西真幸 安西千紗)

コーディネーター 2人(中村雪江 大塚るい)

ワークショップの内容

準備体操：走る ハイハイ ケンケン とんとん リズムに乗ってうたいながらからだ全体を動かしてあそぶ：幸せなら手をたたこう どんぐりころころ ベビーシャーク エビカニックス からだ☆タンタン (お母さんといっしょの最後の曲) 音を感じて体で表現：キュッキュ こする音 ぶくぶく びよーん にゃおーん 嵐が来た！：白い布が大空を翔る、ついていく、くぐる 飛び越す みんなでダンス：散歩(キュッキュなど音が挿入されておりその都度体で表現) ジャンボリーミッキー

当日の様子

幼児全員で「よろしくおねがいます」と、ごあいさつ。まあちゃんたちもそれに応えて「今日はね、体を動かしてあそぶよ。けがをしないようにね」と、やさしいメッセージを贈った。開始から子どもたちの自由な表現が見え、全体を和ませ、まあちゃんを真似て上手に体を動かし、何度も何度も褒められた。知っている曲に合わせて、歌う、踊る、笑う、動き回る。擬音が聞こえるとすかさずポーズを決めて、かわいいしぐさで表現していた。時には先生のお膝にチョコンと座る。目だけで追いながら見ている子もいたり、先生のお膝に抱かれたまま見ている子もいる。先生のお膝は子どもが一番安心できる場所のようだ。休憩時間も会場の端から端までのかけっこが何度も何度も繰り返され、じっとしていない。先生方はヘトヘトで子どもたちは元気。

大嵐の布が空中を吹き荒れた時は、嵐に向かってエビとカニの集団行進のように、子どもたちが一斉に走り出して、嵐をくぐり、飛び越え、嬉しさマックスの盛り上がりだった。子ども同士、まあちゃんと子ども、先生と子どもとの連鎖がうまく響き合い、全体プログラムがうまく流れ、最高の雰囲気ワークになった。

子どもの声

・たのしかった うれしかった ・まあちゃん ちいちゃん ありがとう

施設関係者(児童指導員 保育士)からの声

楽しかったです。思わず一緒に踊っていました。施設では体験できない、こんな貴重な体験の場を創って頂き感謝です。子どもたちの中には対人関係がうまくできなかつたり、成長の遅れのある子もいます。今日、子どもたちがどの子も成長していることを確かめることができました。とてもうれしかったです。体の動かし方をわかりやすく子どもに説明すると同時に、子どもたちの動きや表現を認めてくださり、自信につながったと思います。また、大人や他児とのコミュニケーションの形成にもつながったと思います。

(コーディネーター：中村雪江 大塚るい)

実施施設：白井市桜台センター

プログラム名：「なんだろな なんだろな？」



日本郵便 年賀寄付金



実施場所：白井市桜台センター レクホール

実施日時：2023 年 9 月 27 日 (水) 10:30 ~ 11:20

参加者数：総数 48 人

子ども 23 人 (0 歳 5 人 1 歳 8 人 2 歳 8 人 3 歳以上 2 人)

大人 25 人 (保護者：20 人 保育士：2 人 施設関係者：2 人 行政：1 人)

スタッフ数：指導者 1 人 (うさぎの森企画 大森靖枝)

コーディネーター 2 人 (岡田泰子 棚田純子)

ワークショップの内容

・プロローグ：10 分前の入場 からアシスタント (佐藤さん：やっちゃん) と一緒に鉄琴を鳴らしながら迎える ・くまさんズボンをはく♪ ・りすさんどんぐりを食べると♪ ・なんだろななんだろな (ぞうさん うさぎ)♪ ・おーちゃんへ干ゆうびんが届く。中に大中小のふうとうの人形劇 ・「とまとんとん」 (トマトの箱) でみたてたおしばい ・おさんぽさんぽ♪ ・マヨネーズの笛 ・楽器であそぼう (たいこ すず 手づくり楽器)

当日の様子

- ・全体として静かに見入っていた。親子でおーちゃんの歌にあわせていっしょにうたったり手をたたいたり楽しそうだった。
- ・マヨネーズの容器に水を入れて吹くリコーダーに、ママたちも「オーッ」と声があがってびっくりしていた。「ぷくぷくって言ってるね～」と、抱っこの子どもに呼びかけていた。
- ・最後の楽器にふれる体験は片づけもあそび仕立てで、スタッフがピンクと青の大ふろしきを拵げて「ここに入れてね!」と声かけすると、子どもたちがはりきってお仕事をした。「ありがとう!」という、誇らしげだった。幼くても「役に立っている」感があり、子ども同士がよく回りをみて、コミュニケーションが成立していた。
- ・最後に、おーちゃんがママたちに「今日はここに参加して下さったことがスゴイ!」「子どもたちの安全基地になってください」と声をかけると、シーンと聴き入っていた。

子どもの声

- ・「これなあに?」とたずねると、「ぞうさん! うさぎさん! りすさん!」と動物当てをうれしそうに反応していた。3 歳の女の子たちが、おーちゃんの話すことにしっかり反応して、声をあげ、参加者全体のムードメーカーになっていた。
- ・「とまとんとん」(とまとの箱を逆さにして切れ込みを入れて足にしたいきもの)をよくみて笑い声があがっていた。

保護者からの声

- アンケートから(人)：たのしかった 15 いやされた 3 うれしかった 4 安心できた 1 ホットした 1 つかれた 1 子どもの様子が気になった 4 その他 1 (笑った) また参加したい 100%
- ・家ではグズグズの子が興味しんしん、ニコニコで楽しんで、親子で笑顔になれた。ぜひまた来てほしい
 - ・初めてこのようなコンサートに参加して、子どもがすごく楽しそうにできてうれしかった。
 - ・簡単な歌や身の周りのものでも工夫次第で楽しいあそび、おもちゃになることを改めて感じて家でもやってみたい。

施設関係者からの声

- ・おーちゃんのアシスタントでげき遊びをやった感想。あそびのプログラムによって、親子の反応がそれぞれだったりするが、流れをとめないでやり続けることがいい。いい体験ができた。

(コーディネーター：岡田泰子 棚田純子)



日本郵便 年賀寄付金

実施施設：鎌ヶ谷市栗野児童センター

プログラム名：「なんだろな なんだろな？」



実施場所：栗野児童センター2F多目的室

実施日時：2023年9月29日(金) 10:30 ~ 11:10

参加者数：総数 30人

子ども 14人(0歳:5人 1歳:9人)

大人 16人(保護者:14人 施設職員(保育士):2人)

スタッフ数：パフォーマー 1人(うさぎの森企画 大森靖枝)

コーディネーター2人(中村雪江 鈴木佳子)

プログラム内容

手をたたく・たたかない くまさんが自分でパンツをはく歌付 「りすさんとどんぐりのおはなしあそび」
マヨネーズの空容器で作った楽器でシュッシュポッポ おーちゃんに届いたお手紙のおはなし お山
をのぼる カミナリだ! 雨ざーざー 虹が出た! アコーディオンで♪楽しく歌っておしまい
手づくり楽器にふれる おかたづけ

当日の様子

「おーちゃんが手をたたくというと、みんなもパチンと手をたたくんだよ たたかないって言うとなたかないんだよ、やってみるよ～」おーちゃんのフェイントにひっかかり、最初から笑いが起きる。くまちゃんが自分でパンツをはく。手作りかみしばいでリスさんがどんぐりを拾って食べると、ほっぺたがどんぐりでぷっくり、1歳ぐらいの男の子がおーちゃんのマネしてどんぐりを拾ってパクリ、両方のほっぺがぷっくりして、にこにこ顔になった。イメージ遊びは会場がわさわさと盛り上がる。

マヨネーズ笛、しゅっしゅっぽ～と音を出して電車ごっこ。チュウリップを奏でた時はお母さんもびっくりしていて、チュウリップの歌を応援するように歌った。終わるとパチパチパチ大拍手。置いてある舞台の楽器に興味を持ち、前に出ていく子もいてうろうろ歩き回る。おーちゃんは雨や雷の紙袋でその子の周りを声を出して動くが、歩き回っている子どもたちは自分の世界にいる。1歳児は自由そのもので、全体に賑やかしく、笑顔が飛び交いながら終えた。最後のスピーチで、おーちゃんは、「平和であることは大事なこと、お母さんは子どもの安全基地を作ってあげてほしい」と、お母さんに伝えた。

保護者からの声

アンケートより：子ども：わらっていた9人、興味深く見ていた11人 保護者：楽しかった・癒された・うれしかった98% また参加したい100%

- ・音に興味深々で反応するので、音楽をふいてくれるのはよかった。親子で楽しめた。
- ・こうしたあそびの交流があることで、遊びの幅も広がり、子どももとても楽しそうにしていた。

施設スタッフからの声

自分が楽しかった。お母さんの反応もすごかった。おーちゃんにひかれていろんな顔をして、不思議な目と不思議な顔。マヨネーズ笛がすごかった。今までマスクで表情が見られなかった。ママたちの表情も良かった。子どもも何か始まるという、場の空気を感じていたようでワクワク感もあった。

(コーディネーター：中村雪江 鈴木佳子)



日本児童福祉会
年賀寄付金

実施施設：印西市ふれあい文化館

プログラム名：「おやこでいっしょにダンスあそび」



実施場所：印西市ふれあい文化館 1F 多目的室

実施日時：2023年10月3日(火) ①10:00~10:30 ②10:50~11:30

参加者総数：82人

子ども39人(0歳児~1歳児：19人 2歳児~3歳児：20人)

大人43人(保護者37人 施設職員4人 地域議員2人)

パフォーマー1人(安西真幸)

コーディネーター2人(鈴木佳子 滝口淳子) スタッフ：笠原直子

プログラム内容

幸せなら手をたたこう ベビーシャーク 何の音かな?さんぽ エビカニミックス
アブラハムの子 ジャンボリーミッキー からだだんだん(おかあさんといっしょ)の曲に合わせて年齢にあった動きをする

当日の様子

0歳~1歳の子どもは、まーちゃんの動きにお母さんと顔を見合わせたり、ぎゅーっとくっついたり、にこにこしながら体を動かしていた。幸せなら手をたたこうでは手、足をリズムに合わせて動かして最後、ジャンプでは親が子どもを持ち上げた。

ベビーシャークではお母さんは自らも楽しそうに体を動かしていた。それを子どもがきょんととしてじーっと見ていた。顔を見合わせ楽しそうだった。

何の音?では、次から次からいろいろな音が聞こえてくる。「キュッ、キュッ」の音では腕や頭やお腹をさすって子どもとスキンシップを取っている。風の音がして子どもたちの上を白くて軽そうで長い布がひらひらやってくると、嬉しそうに走りながらぐったり、飛び越えたり。0歳~1歳の子どもたちも抱っこされたり、お母さんと手をつないで一緒にぐったり飛び越えたりした。

2歳~3歳の子どもは気に入った曲、知っている曲が流れると、お母さんと顔を見合わせ、うなづいたり体でうれしさをあらわしていた。気に入った曲が流れると、お母さんから離れてまーちゃんの方に近づいて夢中でおどっている子もいた。さすが2歳~3歳児。調子に乗って我を忘れて独自のダンスをしていた子もいた。参加したパパふたりとも、うれしそうに、子どもとスキンシップをしながら楽しんでいた。

保護者からの声

アンケートから(人)：わらっていた19 興味深く見たり聞いたりしていた20 あきたようだ2
真似をしていた12 普段みられないような動きをした3 緊張していた5 その他3

- ・また参加したい100%
- ・子どもも楽しめて、親もリフレッシュできました。
- ・集団で遊ぶ機会がなかなかないので、今日の時間はとても充実していました。
- ・最後は好きな曲だったので、ノリノリで踊ってくれました。楽しく参加できました。

施設関係者からの声

・プロのパフォーマーの力赤ちゃんをひきつけ、全身で反応することを教えてくれ、お母さんたちを受け止め、リラックスさせ、乳幼児の親子の仲間づくりの場にしてくれた。

(コーディネーター：鈴木佳子 滝口淳子)



日本赤十字社 年賀寄付金

実施施設：成田市こども館なかよしひろば

プログラム名：「わらべうた うたとおはなしのじかん」



実施場所：成田市こども館なかよしひろば 和室

実施日時：2023年11月21日(火) 13:50～14:30

参加者数：総数 24人

子ども10人(0歳：4人 1歳：4人 2歳：2人)

大人14人(保護者：8人 保育士：4人 施設関係者：2人)

スタッフ数：パフォーマー 1人 ((特)表現教育研究所 大沢 愛)

コーディネーター2人 (滝口淳子 椎名好子)

プログラム内容

かごかご16文 ちっちゃ てってのねずみ ぎっこんばったん 真似っこ遊び 去年のややとしおふりこぶり つんく つんく つんく はいよーまてまて お風呂で温まるときの歌 わたろわたろあの橋渡ろ とんぼ チリりん さよならあんころもち

当日の様子

愛さんの語りかけで「かごかご16文」をうたいながら、会場の和室へと列になり移動した。親子共に笑い声が出てリラックスし、ニコニコ顔で円座になる。「ちっちゃここへと一まれ」と歌う愛さんの顔を真向かいの0歳児はジッとみつめ、1歳児はとことこ愛さんに挨拶に行ったり、手の仕草に「バイバイ」と反応。最初は動く子に戸惑いの表情を見せていたお母さんだが、愛さんの「いいのよ動いても」というほんわり安心させる言葉に、お母さんたちの顔がほころぶ。皆で歌いながら手を乗せたり、足にのせてゆすったり、一緒になって楽しんでいる。一つ終わると次は何かと愛さんに注目していく子どもたち。「見て真似ることが育ちにはとても大切」「そして大人は待つ必要があるの」と優しく語る愛さんの言葉に頷く大人たち。「ハイハイまてまて」では部屋中みんな追いかけて。たくさん動いて盛り上がったあとは、静かなわらべうた。今度はみんながじっと動かさず集中し、子たちと微笑み返す愛さんとのアイコンタクトで子どもの心を受け止める。「ちりん」ちりんと鳴る澄んだ音もとても気になり聞き耳を立てている。大きな綺麗なふわふわ布の包み込む空気に癒され「さよならあんころもち」でやさしい保護者の顔が印象的だった。

保護者からの声

アンケートから(人)：たのしかった7 いやされた5 うれしかった3 安心できた2

ホッとした1 つかれた1 子どもの様子が気になった2 緊張した1

- ・生後半年くらいからわらべうたにふれる機会があり、いつも楽しそうな表情をしてくれるので私もうれしいです。最近は自分で歌を歌ったり体をゆすらして踊ったり表現豊かになってきました。
- ・きょうのわらべうたは、初めてきくものばかりで楽しかった。自宅に帰ってからもうやってみよう。
- ・“見て真似する”やらせるのではなく、母がやってみる 真似してできたら褒める。簡単そうで、母に余裕がないとできないような…。気持ちに余裕をもって過ごしたい。

施設関係者からの声

- ・ゆったりとした時間の中、子ども達の笑い声も聞くことができ、すてきな時間を過ごすことができました。
- ・きれいな声にいやされました。つねにおちついたふんいきで、落ち着く感じがした。環境作りをととても大切にされていて、勉強になることが多くあった。

(コーディネーター：滝口淳子 椎名好子)

実施施設：君津児童相談所

プログラム名：「体をつかっていっしょにあそぼう！」



日本赤十字社
郵便 年賀寄付金



プライバシーに配慮し子どもの写真はモザイク処理済

実施場所：君津児童相談所 2F 会議室

実施日時：2023年 11月 21日（火） 13:30 ～ 14:30

参加者数：総数 31人

子ども 22人(幼児6人 小学生11人 中学生2人 高校生3人 男子:8人 女子14人)

大人 9人(施設関係者:9人)

スタッフ数：パフォーマー2人(劇団風の子 大潤弘幸 岡本圭)

コーディネーター 2人(宇野京子 中村雪江)

ワークショップの内容

色オニ 震源地は誰だ だるまさんがころんだ 新聞紙で玉入れ かくれんぼ なりきりかくれんぼ

当日の様子

男子4人、女子14人で圧倒的に女子が多く、幼児から高校生まで幅広い年齢でのワークとなった。大潤さんが最初にみんなに伝えた「小さくて体力のない幼児への配慮、ぶつからないように」も、自然に守り合っていた。「今日はあそびます！」大潤さんの一声にニコっ~とした子どもたちは、色オニで大盛り上がりした。震源地は誰だ?では、大潤さんが震源地を当てられなかった。大潤さんを混乱させた。「うまい！」と大潤さんにも褒められた。大潤オニは数回挑戦したが、子どもたちの遊ぶ知恵がそう簡単に震源地をあてさせなかった。だるまさんがころんだは大盛り上がりで、ドキドキでタッチ! グチャグチャになって、パ~と逃げる。幼児も先生と一緒に、迫力に少し驚きながらも参加していた。新聞紙で玉入れは、「さあ! どういうチームをつくる?」子どもたちと相談だ。大潤さんは「男子が4人、女子が14人ですよ。男女に分けると人数で圧倒的に女子は有利だね。」すかさず男子集団が「男女でいいよ」「えっ? いいの」「うん勝ってやる」ということで、男子、女子、幼児の3チームの玉入れ競争となった。新聞紙を丸めて本気でかごに投げ入れる。1回目の最下位は男子、いい笑顔の男子が負けチームの×ゲームで、堂々と「ちんあなご」の真似をした。2回目の3位は幼児だった。幼児の×ゲームは、「ゴリラ」で、お腹をポンポンたたいた。最後はかくれんぼ。隠れるところがいっぱいあって、本当にわからない。最後の最後に大潤さんに見つけられた子は、「すごい！」と褒められた。全員がたのしかったと手を上げた。1時間はあっという間だった。

子どもの声

- ・アンケートから：たのしかった 19 うれしかった 12 おもしろかった 19 げんきがでた 15 きぶんがよかった 12 やれてよかった 19 むずかしかった 7 つかれた 13
- ・小さいころに戻った気分が楽しむことができたのでよかったです。他の子が楽しそうに笑って遊ぶ姿をみていて、元気が出たし気分もよくてやれてよかったなあと思っています。
- ・ふだんは全員と関わることがないので、幼児さんとか見れて良かったです。すごく良かったです。もっと遊びたかったです。きんちょうすることがなくて、すぐに遊びだったのでうれしかったです。

施設関係者からの声

- ・瞬間に児童の心をつかみとっていたところと、意欲を持たせていただいたところがプロの力です。
- ・児童が主体的に行動し、自信をもって取り組んでいた。自分のことを良く見ていてくれると感じられ、自己肯定感につながった。(コーディネーター：宇野京子 中村雪江)

実施施設：市川児童相談所

プログラム名：「ダンスワークショップ」



日本郵便 年賀寄付金



プライバシーに配慮し子どもの写真はモザイク処理済

実施場所：市川児童相談所 講堂

実施日時：2023年 12月 5日(火) 10:00～12:00

参加者数：総数 41人

子ども 35人(幼児2 小学生22 中学生11)

大人 6人(施設関係者：6)

スタッフ数：パフォーマー2人(安西真幸 安西千紗)

コーディネーター2人(宇野京子 中村幸恵)

ワークショップの内容

体ほぐし (ジャンプ 四つん這い 足のぼし バランス 二人組で後ろ向きで立つ 6人で「せいの」で立ち上がる) 「強風オールバック」の曲でおどろろ ado「唱」 ジャンボリーミッキー 鬼ごっこ

当日の様子

女子と幼児グループ 緊張気味に入場、やや遠巻きに並んだ。パフォーマーから「今日は何するって聞いている?」と聞かれ、「激しいダンス」と答え、静かな中にもやる気が見えた。「いいねー、はげしさは自分を変える!」に「やったー!」と、笑顔が見えた。「ほら、できるよ」と柔軟でとても柔らかな中学生がいた。スキップやジャンプがたくさん入った楽しいダンス、いい!いい!いい!と言われてうれしそう。幼児女児も嬉しそうに、タッチしながら皆をまわって走ったりして止まらないでスタッフにもタッチ! みんな始終にこにこ踊った。最後にまあちゃんにおしゃべりして帰っていった。

男子グループ 片足ジャンプの競争、速ーい!元気だった。体ほぐしで「簡単!簡単!」といいながら挑戦していた子、「でも肩は固いんだ」と言っていた。背中に手をまわし「ほらさわられるよ」と、周りの子と見合っていた。みんなで手をつないでゴロンとして起き上がるとき、掛け声をやりたいと、たくさんの手が上がった。「せいの」と大きな声。でもみんなで起き上がるのはむずかしい。ダンスは、中学生も高くジャンプしながらよく動いて踊った。最後のポーズが決まった。他の曲も「知ってる!」と、すごくうれしそうに踊った。

子どもの声

アンケートから(人)：たのしかった 24 うれしかった 17 おもしろかった 23 げんきになった 18
きぶんがよかった 18 やれてよかった 22 むずかしかった 15 つかれた 22

- ・以外に簡単そうに見えて、すごく疲れました。もうちょっと難しいダンスがしたいとは思ったけど、でももの凄く楽しかったです。 ・ひさびさに運動して、体を動かして良かった。
- ・今日のダンスはとっても楽しかったです!!またいつか来てほしいです!!私からすると、オールバックのふりつけが、すごくおもしろかったです!!また来てくれたらまたおどりたいです!!
- ・また、やりたいし、みんなと、ダンスをやれて、とてもうれしかったです。また、きてほしいです。

施設関係者からの声

- ・職員は生活指導が中心となってしまうので、たくさん声をかけてもらって喜んでいました。職員も子どもが笑顔になっていることで笑顔になっていました。
- ・「ノリがいいね。上手だね。」と声をかけられ、多くの児童の笑顔が見られた。
- ・体をいつも以上に動かすことが出来ていてストレス発散や体を動かして他児とコミュニケーションを取る楽しさを学ぶことができたと思います。(コーディネーター：宇野京子 中村幸恵)

実施施設：柏児童相談所

プログラム名：「からだをつかっていっしょにあそぼう」



日本赤十字社 年賀寄付金



プライバシーに配慮した子どもの写真

実施場所：柏児童相談所 食堂 所庭
実施日時：2023年 12月 7日(木) 13:30～15:00
参加者数：総数 23人
子ども 19人(小学生14人 中学生5人)
大人 4人(施設職員4人)
スタッフ数：パフォーマー2人(劇団風の子 大潤弘幸 岡本圭)
コーディネーター 2人(岡田泰子 大森智恵子)

ワークショップの内容

コミュニケーションゲーム(・色おに ・震源地 ・リーダーゲーム ・なりきりかくれんぼ ・しんぶんし玉入れ) むかしあそび(・紙コップけん玉 ・こままわし) そとあそび(・おにごっこ)

当日の様子

講師の「あそびましょう！」のあいさつの後、導入のあそび「色おに」が始まった。部屋を走り回り、洋服、クツ、床や壁にタッチしたり「ここにあるよ！」と教え合って「えもの」をさがしまわっておおさわぎになった。中学生が静かに入室し、大騒ぎの小学生にアゼンとしたようすで、しばらくは床にうずくまり小さい子たちを目で追っていた。続くゲーム「震源地」が始まると、気持ちが動いたようで、仲間に加わった。「なりきりかくれんぼ」は、隠れる場所がそんなにあるわけではなく、「頭隠して尻隠さず」状態でもクスクス笑ったり、ジーンとうごかないようにしている。講師は「足が何本あるんだ?」「おじぞうさんか?」などと言いながら通り過ぎたり、戻ってきてみつけたりした。紙コップけん玉・・・全員好き。膝の屈伸を上手に使うと安定してコップに玉が入ることを体得すると「見て!見て!」とやってみせてくれた。コマ回しは前で講師が手載せ、綱渡りなど技を見せた。ウズウズしてきたようだ。「コマの糸をかける→構える→ポッと放り出すように投げだす」ことを全員がやろうとした。「ねえ、巻いて!」とうまくできる子や講師に何度も頼んでいた。会場が狭かったが、どの子も周りを気にせず、飽きもせずチャレンジして、コマ時間は終了10分前まで続いた。最後に全員で所庭に出て、鬼を3人決めて鬼ごっこをした。子どもたちは身軽でかけっこは早い。追いかけたおとなは「今夜はよく眠れそう」と笑顔で言っていた。

子どもの声

アンケートから(人)：たのしかった 12 うれしかった 10 おもしろかった 11 げんきになった 6
きぶんがよかった 4 やれてよかった 7 むずかしかった 5 つかれた 8

- ・ワークショップをやったのしかったです。鬼ごっこことリーダーはだれだとかやってすごく楽しかったので、またきてください。またおもしろいあそびかんがえてください。
- ・ほんとうに楽しい一日でした。何回でもやりたいです。こまのまきかたがわかんなかったけど、おしえてもらってわかるようになってよかった。こまは難しかったけれど一回まわせたのでうれしかった。

施設関係者からの声

- ・上手に児童を立てながら全体をリードし、児童が興味を持てるような話し方、メリハリをつける話し方、児童と同じ目線立って一緒に遊びに参加していたところに、プロの指導者の力を感じた。
- ・けん玉やコマ回しで、上手にできたことでたくさんほめられたことで、自信につながったと思う。
- ・どの児童にも丁寧に穏やかに接してくれ、抜けてしまう児童がいなかった。普段の保護所生活ではできない遊びが多く、満足感が得られていた。(コーディネーター：岡田泰子 大森智恵子)

実施施設：佐倉市北志津児童センター

プログラム名：「わらべうた うたとおはなしのじかん」



日本郵便 年賀寄付金



実施場所：佐倉市北志津児童センター 遊戯室

実施日時：2023年12月12日(火) 10:10 ~ 10:50

参加者数：総数 28人

子ども 13人 (1歳児：4人 2歳児：9人)

大人 15人 (保護者 13人 施設職員 2人)

スタッフ数：パフォーマー 1人 (特)表現教育研究所 大沢 愛)

コーディネーター2人 (滝口淳子 中村雪江) 当日スタッフ：守田泰子

プログラム内容

ちちちちち 手ってのねずみ 手うち手うち きょねんのややと かごかご十六文 ぎっこんばったん
まてまてまて いもむしごろごろ またのぞき ふくすけさん ちょちちょアワワ ベルがちりーん
太鼓がぼーん 雪が降ってきた さよならあんころもまたきなこ

当日の様子

愛さんから「今日は私の真似をしてください。子どもにやらせようとしなくて、お母さんたちが私の真似をしていると、子どもが自分でやるようになります」と、メッセージを伝えた。

ちちちちち 頭に、今度は肩にとまる。子どもがお母さんの指先を見目で追い、真似る。「じょうずだね～」
愛さんが優しく声をかける。てってのねずみ…こちょこちょ、くすぐられて きゃっきゃと子どもの嬉し
そうな声が響く。かいくりかいくりととのめ おつむてんてんじひぼんぼん。かごかご十六文・・・子
どもを抱いて歌に合わせて揺れ 浅くしゃがんだり、深くどぼーんとしゃがむと、子どもたちは嬉しくて
楽しくてしかたがない。2人来ているお父さんたちも戸惑いながら子どもと一緒にやっている。膝に子
どもを乗せ上がったたり下がったりする。子どもの背骨や首がしっかりしてからあそんでください。との注意も
あった。はいはいで お母さんが「まてまて」と子どもを追いかける。子どもははいはいで逃げる。親子
で笑顔がいっぱいだ。床の上をいもむしごろごろ 暖かい床暖の上を親子で転がる。四つん這いになった
お母さんを真似して子どもも四つん這いになると、足の間からお互いの顔が見え「見えた 見えた！」わ
っ楽しい！。ベルの音がチーンとすると、ざわざわとしていた子どもたちが、シーンと静かになってベル
の音を聴く。すごい集中力だ。12月のワークにふさわしく、白と銀の紙吹雪の雪が降ってきた、子どもた
ちは大好きな紙吹雪を指でつまんだり、投げたりして、しばらく楽しみ、みんなでお掃除もした。

保護者からの声

アンケートから(人)：たのしかった6 いやされた6 うれしかった2 ホットした3

子どもの様子が気になった 3 緊張した 1 また参加したい100%

- ・人見知りをしたり、普段わらべうたを歌ったり聞いたりする機会がないので、私自身が楽しめました
- ・子どもは、私のそばを離れることはできなかったのですが、しっかり見ていたので、家に帰ったらまねするのかなと思っています。楽しいおちつく時間をありがとうございました。

施設関係者からの声

- ・他に行ってしまう子たちも受け入れていただき、お母さん方もほっとしていたと思います。集中していた親子が多く、職員としても嬉しく思いました。 ・愛さんのお歌がとても素敵でした

(コーディネーター：滝口淳子 中村雪江)

実施施設：千葉市桜木園

プログラム名：「アフリカの音とリズムを楽しもう」



日本郵便 年賀寄付金



参加者の写真は掲載不可

実施場所：千葉市桜木園 1F デイルーム

実施日時：2023年 12月 14日 (木) 13:45 ~ 14:35

参加者数：総数 85人

子ども 60人(高校生以上 60人)

大人 25人(施設関係者・スタッフ：25人)

スタッフ数：パフォーマー3人(BB モフラン ダウディ 典子)

コーディネーター 2人(中村雪江 椎名好子) スタッフ：笠原直子

ワークショップの内容

アフリカの曲2曲 ライオンキングから歌を2曲(サークルオブライフ・ライオンは眠っている) まめアフリカの言葉(肩こり⇒気を付けて、みそ⇒目、しんごう⇒くび、まめ⇒おかあさん) クリスマスソング2曲(きよしこの夜 サンタが街にやってくる) マライカ ハクナマタタダンス アンコールソーラン節

当日の様子

開始時間に間に合うよう早々と準備がすすめられ、開始時間前にはストレッチャーやベッドで、デイルームいっぱいの参加者になった。付き添いの職員スタッフは、お世話をしながら、子どもの側で一緒に手作り楽器を鳴らし、顔に近づけるように声をかけ、子どもの横で踊り歌って参加した。音に反応して足を小刻みに動かし、その足にかけられた鈴がシャンシャンと音をだす。満面の笑みになった子に「うれしいね～」と声をかけた。手を動かして表現している子もいた。モフランさんからスーパーダンサーと指名されて前に出た子どもが、アフリカの早いリズムに乗って、車イスに座ったまま激しく体や手を動かし嬉しそうに踊った。素晴らしい！普段緊張感の高い子らしく、でも今日は緊張もなく踊っていたと職員が話してくれた。音やリズムを通じて、体の細胞が起き上がるような奥深いところで感じ合い、喜びあうことができた。

子どもの声

アンケートから：たのしかった うれしかった おもしろかった げんきになった きぶんがよかった等が、それぞれ70%超える。

- ・一緒に鈴をならすのをがんばった。 ・一緒にうたえてよかった ・太鼓たたいてみたかった
- ・めずらしい楽器をさわってみたかった ・もっとやりたかった すごく楽しかった またきてほしい

施設関係者からの声

- ・自分達の音楽を聴かせることではなく、聴いている人も含め、音楽の響いている空間全体を大切にしていると感じました。一体感を作り上げているところもすごい。
- ・いつもみられない表情、行動を利用者さんたちがしてくれて、声かけ、音楽のすばらしさを感じた。
- ・重心(重症心身障害)の方たちなので、体を少しでも動かすことは、その方にとっては大きな動きになる。たいこの音や、そのリズム、ピアノや歌のする方へ首や視線を向けたり、一緒に声を出して歌ったり、鈴を鳴らそうと指先を少し動かしたり、それぞれに音楽に触れ、感じ、体を動かして表現していた。
- ・このような普段体験することが難しいようなことを実施できたら良い。ぜひまたきてください。

(コーディネーター：中村雪江 椎名好子)

＜こども基本法 2023年4月1日施行＞（一部抜粋）

こども基本法は、日本国憲法、児童の権利に関する条約（以下「こどもの権利条約1」という。）の精神にのっとり、次代の社会を担う全てのこどもが、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指す。

＜こども大綱の策定 2023年12月22日閣議決定＞（一部抜粋）

全てのこども・若者が、日本国憲法、こども基本法及びこどもの権利条約*の精神にのっとり、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、ひとしくその権利の擁護が図られ、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で生活を送ることができる社会。

こども大綱が目指す「こどもまんなか社会」

～全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる社会～

1 ライフステージを通じた重要事項として

- （1）こども・若者が権利の主体であることの社会全体での共有等
- （2）多様な遊びや体験、活躍できる機会づくり（遊びや体験活動の推進、生活習慣の形成・定着）

遊びや体験活動は、こども・若者の健やかな成長の原点である。例えば、こどもが遊びに没頭し、身体・感覚を使い、自らの遊びを充実、発展させていくことは、言語や数量等の感覚などの認知的スキルや、創造力や好奇心、自尊心、想像力や思いやり、やり抜く力、折り合いをつける力などの社会情動的スキルの双方を育むことに加え、多様な動きを身に付け、健康を維持することにつながり、ひいては、生涯にわたる幸せにつながる。こういった遊びや体験活動の重要性、学びへのつながりや、その機会を保障することの重要性を改めて認識した上で、国や地方公共団体、地域、学校・園、家庭、若者、民間団体、民間企業等が連携・協働して、こども・若者の全てのライフステージにおいて、年齢や発達に応じて、自然体験、職業体験、文化芸術体験など多様な体験・外遊びを含む様々な遊びができるよう、青少年教育施設の充実を含め、地域資源も生かした遊びや体験の機会や場を意図的・計画的に創出する。地域や成育環境によって体験活動の機会に格差が生じないように配慮する。

2 ライフステージ別の重要事項（1）こどもの誕生前から幼児期まで こどもの誕生前から幼児期までは、こどもの将来にわたるウェルビーイングの基礎を培い、人生の確かなスタートを切るための最も重要な時期であるとともに、この時期への社会的投資が次代の社会の在り方を大きく左右するため、社会全体にとっても極めて重要な時期である。また、乳幼児は多くの時間を家庭や地域の中で過ごし、幼稚園・保育所・認定こども園への就園状況も異なるなど、育ちの環境は多様である。その多様性を尊重しつつ、保護者・養育者の「子育て」を支えることだけでなく、「こどもの育ち」に係る質にも社会がしっかりと目を向け、保護者・養育者の就労・養育状況を含むこどもの置かれた環境等に十分に配慮しつつ、ひとしく、切れ目なく、ウェルビーイングの向上を図ることが重要である。乳児期におけるしっかりとした愛着形成を基礎とした情緒の安定や他者への信頼感の醸成、幼児期における他者との関わりや基本的な生きる力の獲得を通じて、一人一人のこどもが、かけがえのない個性ある存在として認められ、自己肯定感をもって成長することができるようにしなければならない。

2023年度日本郵便年賀寄付金助成事業
「コロナ禍で制限されてきたコミュニケーション力をとりもどすための
子どものあそび交流体験」事業

実績報告書

発行日：2024年2月29日（木）

発行者：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉2-17-6

サンコート新千葉102号

TEL：043-301-7262 FAX：043-301-7263 E-mail：kidchiba@lily.ocn.ne.jp

この報告書の内容を無断で引用・転載することはかたくお断りいたします



日本郵便 年賀寄付金

主催：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉 2-17-6 サンコート新千葉 102 号

TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263

E-Mail: kidchiba@lily.ocn.ne.jp <https://chiba.gekijou.org/>